星ヶ丘高校料理部
偏差値68の目玉焼き
≪講談社≫　樋口直哉/著

【B913.6/ヒク】

同級生の藤野に誘われ、廃部寸前の料理部に入部した女子高生の篠原皐月。

二人とも特に料理が好きなわけでもなく、顧問と部長しかいない料理部。なんだか出だしから不安になる展開ですが、一体どうなるのか…！？

いわゆる気合の入った「料理部」ではなく「失敗した料理でもおいしい」というゆるめの「料理部」というところが、読んでいて安心できます。

そしてなんとこの本、作者がプロの料理人なんです！料理について化学的に説明してくれているので、なぜ美味しくできるのかがとても分かりやすいです。読んでいるとなんだか不思議と料理がしたくなってきます。というか料理について自然に詳しくなるので、料理上手になった気分になれます。(笑)

もう一つのおすすめポイントは、少しだけミステリー要素もあるんです。小さな謎を解明しつつ、顧問や部長たちとゆる～く料理をやっていくかんじ…ミステリーと料理が同時に楽しめる、なんとも一石二鳥な作品です！ぜひ読んでみてください。

もしもカメと話せたら
《プレジデント社》須田 研司／監修,ペズル／文,じゅえき太郎／絵

嫌なことがあった時、みんなはどうやって対応してますか？２号はモヤモヤを消化しきれずにパンクしてしまうこともあります…。そんな時に出会ったのがこの本です。

カメやカエル、アイガモなどの水辺の生きものがどうやって環境や周りのものと適合しながら生き抜いているかを会話形式で紹介されています。

個人的に一番「おお～！」と納得したのが「イヤな環境、バンバン避けよう。」っていう言葉。なんとなく逃げてる気がして我慢しちゃう時ってあると思う。だけど、生き物たちは自然を生き抜くために寒い冬は冬眠するし…って思うと確かに！言われてみればそうだなぁって思います。

【481.7／モ】

こんな感じでそれぞれの水辺の生きものからありがたいお言葉を頂けます…。正直なことを言うと、人間が言った言葉より生き物が実際にこうやって生きてるんだなって思うとめちゃくちゃ納得ができます（笑）みんなも参考にしてみてね！

らいぶらりあん LB ぼーいず

恐竜まみれ
《新潮社》小林 快次／著　【1Fレファ 457.8/キ】

子どもから大人まで幅広い世代にファンがいる恐竜。博物館などで、骨格標本や化石を見たことがある人も多いはず。ですが、そうした化石はどんな人たちがどうやって発見しているのか考えたことはありますか。この本は、恐竜学者である著者がこれまでに関わってきた調査活動での出来事についてまとめた発掘記です。巨大なグリズリーと間近で遭遇したり、砂漠で一人きりの時に嵐に見舞われたりと想像以上に化石の発掘現場は命がけ。第一線に立つ著者だからこそのスリリングなエピソードが満載の一冊です。読んだ後は、きっと展示されている化石や標本を見る目も変わるはず。

本に載っているエピソードの一つですが、化石発掘ツアーの一般参加者が見つけた化石が、実は大発見だったこともあるのだとか。まさにロマンだなぁ。

おどろきの植物 不可思議プランツ図鑑
≪誠文堂新光社≫　木谷 美咲/著

【470/フ】

動物と比べて地味な印象がある植物（失礼）ですが、世界には「なんでこんな姿に！？」と、思わず目を疑うような植物がたくさんあるんです！動物のように動けない植物が厳しい環境で生き抜くために進化していく姿は、神秘的でとても興味がわきます。

植物はレア度別に紹介されており、レア度１～３までありますが、１号はレア度２から初めて見る植物ばかりでした。ロマネスコやラフレシアはなんとなく写真で見たことがあるけど、「どんな植物なの？」と聞かれると説明できません。そんな、何となく知っているけどよく分からない…という疑問も解決！

ちょっと難しそうな感じがしますが、博士と男の子が会話形式でテンポよく紹介してくれるので、サクサク読めます。

イラストもフルカラーで分かりやすいので、はじめての方にもおすすめです！

僕が答える君の謎解き
《星海社》紙城 境介／著，羽織 イオ／画

推理小説といえば、探偵と相棒が真実にたどりつくまでが描かれたものが定番ですが、一味違った推理小説はいかがですか？

天使のような見た目の明神凛音は無意識で犯人が分かってしまうというすごい能力の持ち主。そう、この本では、最初に犯人が分かってしまいます。（びっくり！）でもどういう推理でその結論に至ったのかが彼女自身にも分からない…。そこで伊呂波透矢が明神凛音の推理を論理的に推理する…という物語です。

今までの小説と違うところは、推理した人も一緒にその推理にたどり着いた経緯を考えるというところです。いや無意識下でなにが行われとんねん！ってなるけど、一緒にわくわくしながら読み進めることができます。そしてツン強めの明神と伊呂波の関係性も気になります…！恋愛小説としても楽しむことができる一度で二度おいしい一冊です。

【F913.6/カミ】

パズルのピースがハマって完成するような一つ一つ進んでいく物語、楽しんでみてはいかがですか？

L A（らいぶらりあん あにき）

甲子園！愛知４強物語
強豪校の歴戦の記録と感動秘話
《徳間書店》鶴 哲聡／著

始まりました、春のセンバツ高校野球（この文を書いている日からちょうど始まりました）！みなさんとそんなに歳の変わらない選手が会場を沸かせています！この中には未来のプロ野球選手もいるはずです。

さて、本題に・・・。今回はみなさんにディープな高校野球の世界を紹介したいと思います。

中京、名電、享栄、東邦。この４つの学校は高校野球ファンから「愛知４強」とか「私学４強」と呼ばれて、注目されています。

今回紹介するこの本は、その学校ごとに印象深い試合の内容やエピソードが詳しく書かれているところがおすすめポイントです。たまたま自分がテレビで見ていた試合についても書かれていて、「あの時、選手はこんな気持ちだったんだなぁ。」とか、「堂々としているようにみえてもやっぱり高校生だよなぁ」とか思ったりしました。

読み終わったころにはあなたも高校野球オタクになっているはずです！

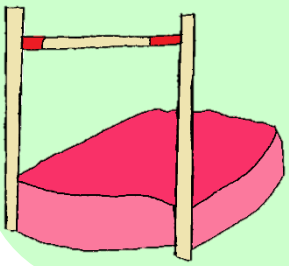
【２ＦＹＡ　L783.7/コ】

L B（らいぶらりあん ぼーいず）

空は逃げない
《光文社》まはら 三桃／著

同じ大学の陸上部で棒高跳びの選手をしている佐藤倫太郎と佐藤林太郎の二人は、同姓同名で紛らわしいのでそれぞれＡ太郎・Ｂ太郎と呼ばれていた。ある日、以前から二人の練習するところを熱心にスケッチしていた芸術学部の石井絵怜奈が突然、自分も棒高跳びをやりたいと言い出した。

大学時代と数年後の現在を交互に描写しながら、三人が過去や挫折と向き合い、新しい道へと進んでいく姿を描いた青春小説です。三人それぞれがたどり着いた答えに爽やかな気持ちになれる一冊です。もう一つオススメしたいのが、物語の主軸にもなっている棒高跳びの描写です。あまり馴染みのない競技だと思いますが、一連の動作の描写が丁寧で、競技中の映像がスッと頭に浮かんできます。林太郎は作中で棒高跳びの注目度が低いことを悔しがっているんですが、この本を切っ掛けに興味を持つ人もきっといると思います。



【２Ｆポピ　F913.6/マハ】

雨降る森の犬
≪集英社≫　馳　星周/著

【B913.6/ハ】

血のつながった家族よりも、血のつながりのない人のほうが信頼できる…という経験はありますか？

主人公の広末雨音は、恋人を追いかけてアメリカへ移る母とではなく、長野にいる伯父・乾道夫のもとで生活することを選択します。雨音は、道夫と道夫の飼い犬・ワルテルとの生活や、隣人の国枝正樹との交流の中で、求めていた家族のかたちを見つけ、自分の本当にやりたいことに出会います。

雨音の、母親との関係に悩む心情や、長野でできた友人とのやり取りは、中高生の皆さんにきっと共感してもらえるはず！

この本の読後には、物語に登場する料理が食べたくなったり、犬を飼いたくなったり、カメラや登山を始めたくなるかもしれません。

今、周りの人間関係に悩んでいる人は、一度その関係から離れてみることや、本の中に信頼できる人を探すのも、一つの手だと思います。

雨音と、道夫、正樹、そしてワルテルとの関係性が、人付き合いの参考になるかも…？

モブなのにすごいことしちゃった！日本史の偉人たち
≪朝日新聞出版≫　大澤 研一／監修，伊野 孝行／イラスト　笠井 木々路／編・文，朝日新聞出版／編著

みんなは偉人といえば誰を思い浮かべますか？織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑？それとも幕末の風雲児、坂本龍馬？

偉人と呼ばれる人たちはたくさんいますが、その中には例に挙げたような超有名人たちの功績に隠れてあまり目立っていない人も…。この本では、やったことは間違いなくすごいのに、いまいち注目されない偉人たちのことを「モブ」と定義。そんなモブたち全70人の活躍をイラストと共に紹介していきます。

現存する世界最古の会社の創業者に、何度も戦に負けて城を奪われた戦国最弱の武将（しかしその度に城を取り戻す！）、日本人で初めて人工の飛行装置で空を飛んだ人等々…載っているのは本当にすごい人ばかり。中には、日本史の授業で習う出来事に密接に関わっていた人も。

教科書の内容の陰でこんな事していた人たちがいたのかと思うと、歴史の授業が楽しくなること間違いなしの一冊です。

【281.0／モ】

らいぶらりあん LB ぼーい

スマホゲーム依存症
≪内外出版社≫　樋口 進／著

現代を生きる上で必需品とも言えるスマートフォン。まだ5，6歳くらいの子どもが店の待ち時間に親のスマートフォンでゲーム、なんて光景もよく見るようになりましたね。

そのスマホゲームの危険性について説明しているのが本書です。どうして依存症になるのか、何が危ないのか、どう治せばよいのかが載っています。

かくいう私も学生の頃はスマホゲームにどっぷりでした。やめたきっかけは、課金しても欲しいものが出ずに虚無感を味わうよりも、本や据え置きのゲームで払った金額に見合った満足感を得られるほうが良いと気づいたからなんです。

…って、結局娯楽に依存してるのは変わってないじゃん！！

【2F ポピ　H/493.7/ス】

らいぶらりあん LG がーる

パート・オブ・ユア・ワールド（上・下）
≪学研プラス≫　リズ・ブラスウェル／著，池本 尚美／訳

【2F TF/933/フ】

誰もが一度は読んだり見たりしたことがある(はず！)の『リトル・マーメイド』。主人公の人魚姫が陸の世界に憧れ、恋に落ち、困難な目に遭いつつも最後にはハッピーエンドを迎える…。ディズニーの物語はほとんどがハッピーエンドで終わります。でも考えたことはありませんか？もし主人公が負けてしまったら、もし主人公がこの始まりでなかったら、もし主人公がハッピーエンドで終わらなかったら、もし、ヒーローやヒロインではなくヴィランが勝利したら…。

この『パート・オブ・ユア・ワールド』は、本来のお話とは違い魔女アースラに破れた5年後のお話として書かれています。正史では見ることのできない、多くのもしもに溢れたゆがめられた世界！一度完成された作品を新たにダークな視点で語り直したこの本を、当時『リトル・マーメイド』を読んでいた自分を思い出しながら読んでみてください！主人公と共に、成長して少し物事の見方や考え方が変わった自分に気づくかも…

職員おすすめ本コーナー

こんなところにいたの？
≪誠文堂新光社≫　林 良博/監修，ネイチャー&サイエンス/編

【481.7/コ】

今回は、３割学び、７割遊び感覚で楽しめる本を紹介します！

自然界で擬態している様々な生き物たち。この本では、彼らが実際に擬態している写真と、生態、その他の豆知識が紹介されています。一見するとただの風景写真の、どこに生き物が擬態しているのか、ゲーム感覚で探せます（ちなみに私はp.22とp.43の生き物がどこにいるのか全くわかりませんでした…）。生存競争の厳しい自然界で生き抜くために、精巧な擬態を身につけた生き物たちの姿をじっくり楽しんでみてください。写真を遠くから眺めると、生き物を探す難易度がより上がります！

また、この本の解説の文章もウィットに富んでいて、とても面白いのでおすすめです。生き物たちの擬態の解説に、ちょっぴり皮肉と悲哀を混ぜた文章で、どんどん読み進められます。

楽しく擬態生物について学べ、生き物探しゲームとしても使える（！？）一冊です。

勉強の合間の息抜きにいかがでしょうか？

本を守ろうとする猫の話
≪小学館≫　夏川 草介／著

書店を営む祖父と二人暮らしをしていた夏木林太郎。しかし、突然祖父が亡くなり、学校へも行かず書店にこもって、叔母の家に引き取られる日が来るのを待つだけの日々を過ごしていた。そんな林太郎の前に、人間の言葉を話すトラ猫が現れる。その猫は、本を解放するために協力してほしいと言ってきて…。

本に対する考え方を通じて、自分の殻に閉じこもっていた林太郎が変わっていく姿を描いたお話です。展開はファンタジーのようですが、林太郎が対峙する、本を閉じ込めている人たちの主義や主張は、まさに本を取り巻く現状を物語っているものばかり。本の価値とは、何のために本を読むのか、深く考えさせられます。そして、そんな難しい問題に対して、祖父が生前に語った言葉をヒントに林太郎がたどり着いた答えに読者は共感し、心打たれます。本が好きな全ての人に読んで欲しい物語です。

【F913.6/ナツ】

らいぶらりあん LB ぼーい

ぼくがスカートをはく日
≪学研プラス≫　エイミ・ポロンスキー著

LGBTという言葉が取り上げられるようになって早数年。岡崎市内でも一部の学校では女子でもスラックスをはけるようになるなどの変化がありましたが、「自分は関係ないしよくわからない！」という人も少なくないのではないでしょうか。そんなあなたにおすすめなのがこの本です。

主人公は、アメリカの小学校に通う、身体の性別は男性の子ども。自分の着たい服について悩んでいると、学校行事で劇のオーディションが開催されることに。しかもその主役は女の子であることを知ります。それまで誰にも悩みを打ち明けてこなかった主人公。果たして望みは叶うのでしょうか…

性自認のアウティングや、周囲の反応について、丁寧に描いた作品です。

【2F 子ども　933/ホ】

らいぶらりあん LG がーる

小さな星の本
≪リベラル社≫　渡部潤一／監修

みなさんは夜空を見上げたときに、いくつ星座を見つけられますか？たくさんの星座を瞬時に見つけられる人は、あまりいないのではないでしょうか。

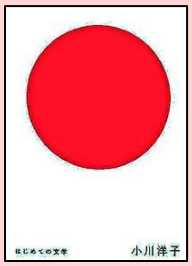
太古の昔から、人々は夜空の星を見て、物語や美術品を創作してきました。特に星座の成り立ちと物語は、切っても切れない関係にあります。

この本では、春夏秋冬の星座とその見つけ方が紹介されており、世界各地の絶景星空スポットの紹介や、宇宙や月について、星をモチーフにした文学作品や芸術作品についても書かれています。

中々自分では星座を見つけられない人も、この本を参考にして、自分の目で星座を探してみてください。わかる星座が増えると、いつもは何気なく見上げている夜空がまた違って見えるようになるかもしれません。

是非この本を読んで、星と宇宙の世界にどっぷり浸ってみてください。

はじめての文学　小川洋子
≪文藝春秋≫　小川 洋子／著



【F913.6/ハシ】

「はじめての文学」シリーズは、同じ著者の短編小説が一冊にまとまっているので、初めてその著者の作品を読むという人にぴったりのシリーズです。同じ著者が書いた小説をいくつか読むと、その著者の物語の世界観や文体の特徴がつかめてきます。

この本では、小川洋子さんの５本の短編が載っていますが、その中で特に気に入ったのは、『バックストローク』というお話です。背泳ぎの才能がある弟と、その姉の関係を中心に描いた物語ですが、弟を大切に思う姉の心情と、家族を取り巻く危うげな雰囲気から、読後に何とも言えない気持ちになりました。

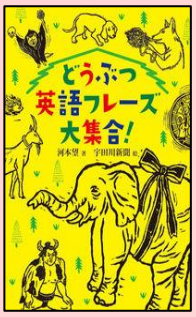
小川さんの小説の主人公は皆、過去に何かしらの引っかかりをもって生きています。過去の出来事が、主人公の現在を仄暗いものにしているけれど、希望や救いは確かにある…という雰囲気がどのお話にも共通しています。

皆さんも、「はじめての文学」シリーズで、新たな著者を開拓してみてはどうでしょうか。

どうぶつ英語フレーズ大集合!
≪偕成社≫　河本 望／著，宇田川 新聞／絵

「白い象」に「黒い羊」、「白鳥の歌」に「ワニの涙」。これ全部、動物を使った英語のことわざや慣用句を直訳したものなんです。それぞれどんな意味だと思いますか？

この本では、動物が出てくる英語のことわざや慣用句などを動物の名前のアルファベット順に紹介していきます。紹介される言葉は、直訳だけでも意味が何となく予想できるものもありますが、やっぱりそこは文化の違いか、何でそんな意味になるの？と疑問に思うものが大半です。例に挙げた中だと、白い象なんて神聖な感じがしますが、そこからはとても想像できない意味なんですよ。言葉の由来やそれに関する豆知識なんかもわかりやすく解説されているので、日本と英語圏との動物に対するイメージの違いなんかも楽しみながら読み進められます。



最後にこの本からもう一つ。
「See you later, alligator」
（あとで合おうね、わにちゃん）
意味はぜひこの本を読んで。

【834.4／ト】

らいぶらりあん LA あにき

はじめよう!ソロキャンプ
≪山と溪谷社≫　森 風美／著

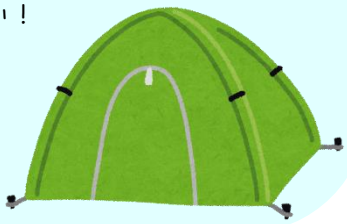
図書缶読者の方で、『ゆるキャン△』を知っているという人はどれくらいいるんでしょうか?

私は原作、アニメ、劇場版全て見ましたが、見てるとキャンプ行ってみたいなと思うと同時にすごくおなかが空いてくるんですよね…罪な飯テロマンガだぜ…

さて話を戻して、『ゆるキャン△』が火つけ役になったと言っても過言ではないキャンプブーム。憧れはあるけど何が必要なのか分からないという人にお勧めするのがこの本です！キャンプをするにあたって必要なものや、テントの張り方、キャンプ飯の例まで掲載されています。

「学生だからソロキャンは親に反対されそう…」という人も、2階ポピュラーライブラリーの20番の棚にアウトドアの本が沢山あるので、そちらで合うキャンプ本を探してみてください！

【2F ポピ　N786.3/ハ】



らいぶらりあん LG がーる

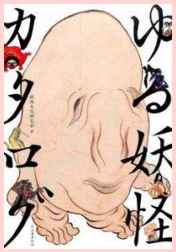
キノの旅
≪汐文社≫　時雨沢 恵一／著

暑さがゆっくり薄らいで涼しくなってきている（それでもまだまだ暑い）秋。少し涼しくなった外にお出かけしたいという気持ちと、のんびり家に閉じこもっていたい気持ちがぶつかりませんか？そんな時に今回の本はいかがでしょう！主人公とその乗り物の二人（！？）が、一話で一つの国へ行き、三日間滞在して旅する物語です。一話完結となっているので、どの場所から読んでも楽しめて、巻数の前後も気にせず読めます！また一話一話が程よく短いので、さらっと読み進めることができます。主人公たちが訪れる国ごとには様々な特徴が描かれ、温かい別れもあればどこかゾクっとする別れもあり、家の中で読んでいてもその国へ出かけているような、主人公たちと一緒に旅をしているような気持ちになっていきます。もしかすると、この本を読み終わっている頃には自動二輪車の免許が欲しいと思う人もいるかもしれませんね……。

【2F YA　913/シ】

職員おすすめ本コーナー

ゆる妖怪カタログ
≪河出書房新社≫　妖怪文化研究会/著



【388.1/ユ】

恐ろしいものとして表現されがちな妖怪ですが、この本で紹介されているのはどれもゆる～いルックスの妖怪ばかりです。著者も紹介しているように、まるで現代のゆるキャラのような見た目の妖怪が集められています。

妖怪たちの姿は絵巻物から出典されているものが多いですが、昔の人々のユーモラスあふれる想像力にはただただ感心させられます。昔の人々は、単なる見間違えや誇張だけでなく、教訓のために妖怪を作り出したり信じたりしたのだろうなとこの本から想像できます。私は妖怪がいたら面白いなと思いますが、実は昔、ある体験をしたことがあります。小さい頃、祖父と一緒に仏壇の前でお経をあげていると、後ろから小さな足音がして横を走り抜けていきました。後姿は着物を着た女の子。一瞬妹かなと思いましたが、襖の奥にそのまま消えていきました。もしかしたら座敷童だったかも！？みなさんも何か体験したことがあったらこっそり教えてください！

暑さを吹き飛ばす必要もなくなったこの時期に、ゆる～い妖怪たちに癒されてみてはいかがでしょうか。

友達以上探偵未満
≪KADOKAWA≫　麻耶（まや） 雄嵩（ゆたか）／著

２号が一番好きな小説のジャンルはミステリーなんです。特に手がかりが全て読者に提示されていて謎解きにチャレンジでき、最後に探偵役によって意外な真相が語られる超王道なもの！王道すぎてむしろ最近は見る機会が減っているんですが、今回はそんな中で出会えたドンピシャな作品をご紹介します。

探偵に憧れている高校生の伊賀ももと上野あおの二人は、所属する放送部の活動で取材に訪れたイベントで殺人事件に巻き込まれる。二人は、これ幸いとばかりに刑事をしているももの兄に協力してもらいながら事件解決に乗り出した。

空回り気味だけど直感に優れたももと冷静沈着で論理的思考が得意なあおの活躍が楽しめる本格推理小説です。問題編と解答編にわかれているので、解答編を読む前にぜひ謎解きに挑戦してみてください。

ちなみにこの作品は本格ですが、作者の麻耶雄嵩さんは、本来はかなりクセの強い作品で知られている方です。他の作品と読み比べて作風の違いを楽しむのも面白いと思いますよ。

【F913.6／マヤ】

らいぶらりあん LB ぼーい

盗まれた記憶の博物館上・下
≪あすなろ書房≫　ラルフ・イーザウ/著

なにかを言おうとした瞬間にど忘れしちゃうこと、ありますよね。そして私は思い出すのが超下手なので、今日も「平泉成」を思い出すために「三寒四温」が出てきました。そうはならんやろ。

でも、いくらなんでも自分の父親の存在をすっかり忘れてしまうなんてありえませんよね。しかしこの物語の主人公は、父親のことを忘れてしまった双子の姉弟なんです。

ある雨の夜、姉弟は自宅を訪れた警部から、自分たちの父が、夜警を務めていた博物館から展示品と共に消えたと聞かされます。残された日記から、父は地上で忘れられたものが来る国、クワシニアへ行ったのではないかと推測します。そして、姉は現実世界で、弟は失われた記憶の国で、それぞれ父を探す冒険が始まるのです…

【TF943/イ/1・TF943/イ/2】

らいぶらりあん LG がーる

戦国武将の死亡診断書
《エクスナレッジ》酒井シヅ/監修
戦国☆保健委員会/編・著

歴史の授業で習う数々の戦国武将、その偉業や戦果、ちょっとしたエピソードや最期を知っていても、どのような健康状態だったかは知りませんよね？

この本では誰もが知っている武将から「そんな人がいたのね」という武将達の死亡診断書が、生前のエピソードと共に載せられているんです！最期は焼け落ちる寺で亡くなったんでしょ?って武将も、実は高血圧で早死していた可能性があったり…(誰のことか分かりますかね?)

【281.0/セ】

読み進めていくと、この武将授業で習って知っているぞ！という武将や、絶対に授業で習ってないよ…知らないよこんな人…というマイナーな武将も載っているので歴史の勉強にもなるかも？またこの本を読むことで、自分の生活習慣を見直すきっかけにもなるかもしれませんね。誰だって健康で元気に暮らしたいですし！